

## 平成 28 年度 「地域共生プロジェクト」実践概要

### 1 学校の概要

本校は、各学年普通科 3 クラス、ライフデザイン科 1 クラスの計 4 クラスからなり、県立学校では唯一家庭に関する専門学科があることが大きな特徴である。校舎は「養正が丘」と呼ばれる小高い丘の上に建っており、自然が豊かで、また地元地域とのつながりも深く、非常に恵まれた教育環境にある。本校からわずかの距離に保育所、幼稚園、福祉センター、老人保健施設があり、ライフデザイン科の生徒を中心に様々な交流活動を行っている。

### 2 実践のねらい

乳幼児や高齢者、障がい者との異世代交流を通して積極的に他者と関わり、相手を理解し尊重する心や、思いやりの心を育む。また、活動を通して、主体性や自己肯定感を伸ばし、コミュニケーション能力を高める。

### 3 実践の内容

- (1) 小松東保育所・小松西保育所での乳幼児との交流学習（写真 1・2）
- (2) 知的障害者施設「しげのぶ清愛園」の利用者さんとの交流
- (3) 小松小学校 1 年生との交流
- (4) デイサービスセンターでの高齢者との交流（写真 3）
- (5) 西条市のイベントの手伝い等における他のボランティア団体や地域の人との交流



（写真 1）



（写真 2）



（写真 3）

### 4 成果と課題

普通科の 1 年生とライフデザイン科の生徒を中心に「地域共生プロジェクト」を実施した。交流後の生徒の感想には「子どもたちにありがとうと言われるだけでとても嬉しくなった。改めて、感謝の気持ちを伝えることは大切だと感じた。」「子どもの目線と合うように姿勢を低くすることを心がけた。そのおかげか、子どもとの距離が縮まった気がした。」「障がいがある人と初めて接したが、相手を理解するためには、積極的に声をかけることが大事だと思った。」という記述がみられ、生徒たちは何かしらの気づきがあったり、行動する力を身につけたようである。

課題としては、どうしても自分の殻を破れない生徒や、何を話題にしてよいか困惑している生徒、対象者への苦手意識がある生徒への対応が挙げられる。せっきくの交流時間が充実したものとなるよう事前に話題の準備をさせておいたり、教師や仲間間でのサポートが必要である。